

# 分科会講評

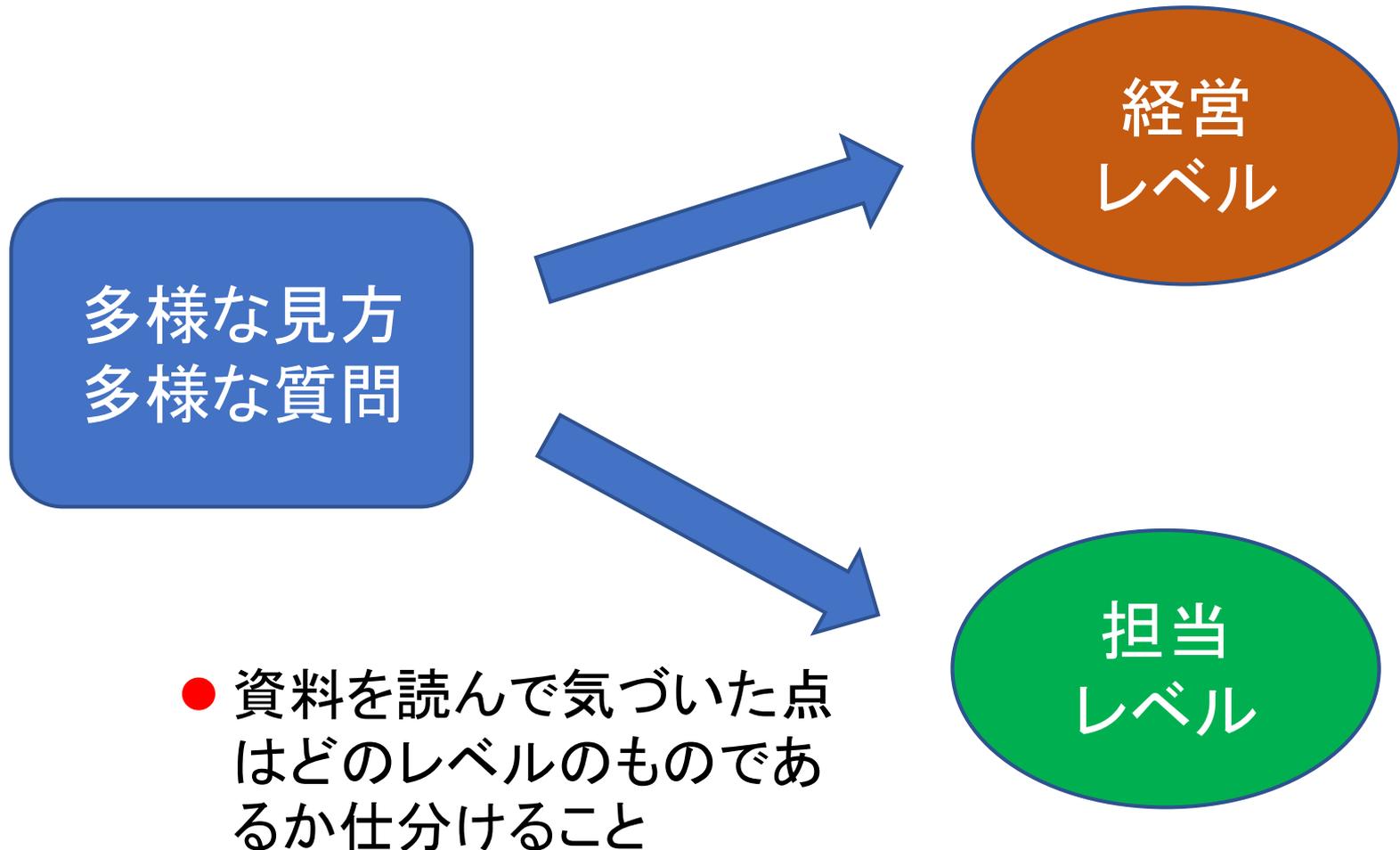
2018年10月 エコアクション21中央事務局参与 黒柳要次

# 今回の分科会のポイント

---

- ▶ 課題とチャンス<sup>○</sup>を議論しながら、多様な意見、考え方があることを体験することが重要。その意味では自らの意見をポストイットに記載し、良く議論していた。
- ▶ まとめに「正解」を求めるものではない。仮説としての課題とチャンス<sup>○</sup>を審査員が設定しても、代表者が考える課題とチャンス<sup>○</sup>が正解である。
- ▶ 審査の前の準備に課題とチャンス<sup>○</sup>を設定しても、事前の資料では限界がある。今回の3社でも売上を記載している会社、していない会社がある。
- ▶ 審査の場面で仮説を設定する意味は、代表者が言っていること<sup>○</sup>理解し、質問をするための準備である。自説を主張するための準備ではない。

# 意見を集約する際に気になった点



# まとめについて

- ▶ 全体的にはよく整理されている。議論した成果が良く  
でている。
- ▶ 気づいた点
  - ▶ 資料で確認した範囲の事業を取り巻く状況、事業と環境との  
かわりから課題をチャンスが出てくるはずだが、整合がな  
い場合がある。➡多くの意見をまとめた結果
  - ▶ 課題とチャンスが資料から明確なもの、こうしたことが考えら  
れるのではないかというものが混ざっている。➡例：〇〇が不  
明確など 事前準備としては事実と仮説が識別できていれば  
よい
  - ▶ 課題とチャンスはすべてエコアクション21で解決できるわけ  
ではない。審査では何をエコアクション21で解決したいか明  
確にする。数は少なくとも良い(1つでも2つでも)。

# 各社におけるキーワード

---

## ▶ 第一化学工業

- ▶ 不良対策重要
- ▶ めっき市場の厳しさ
- ▶ 環境対策・周辺住民
- ▶ クロムめっき技術
- ▶ 従業員教育熱心

## ▶ 大和精機製作所

- ▶ EV普及
- ▶ 工場が分散
- ▶ 保有機械が多種・多様
- ▶ 小ロット・少量生産
- ▶ 多くの協力企業

## ▶ ヒノックス

- ▶ 無借金経営
- ▶ 売上減少
- ▶ IOT、AI製品需要、業界の変化
- ▶ 多数の優良取引先
- ▶ 自社一貫生産
- ▶ オーバーホール品の伸び
- ▶ 小品種少量対応可

- 1つキーワードでも様々な見方がある

# 審査において留意すべきこと

---

- ▶ 経営者は自社を良くしたいと考えている。自社が良くなるかどうかの責任は経営者にある。審査員の役割は、その手助け・支援であり、審査員が責任がある訳ではない。
- ▶ エコアクション21が経営の根幹にかかわって欲しくないと考えている経営者にエコアクション21が「経営に役立つ」と説いても効果は少ない。むしろ反発がある。
- ▶ 逆にエコアクション21を使い、自社を良くしたいと考えている経営者には、今回の改訂は審査員として手助け・支援が可能である。
- ▶ 経営者がどういう人物、性格、考え方なのか審査員はよく見る必要がある。消極的な経営者も時間がたてば考えかたも変わる可能性がある。
- ▶ 課題とチャンスは審査員にとっても課題とチャンスである。